

細菌検査統計報告 (当検査センター受託分)

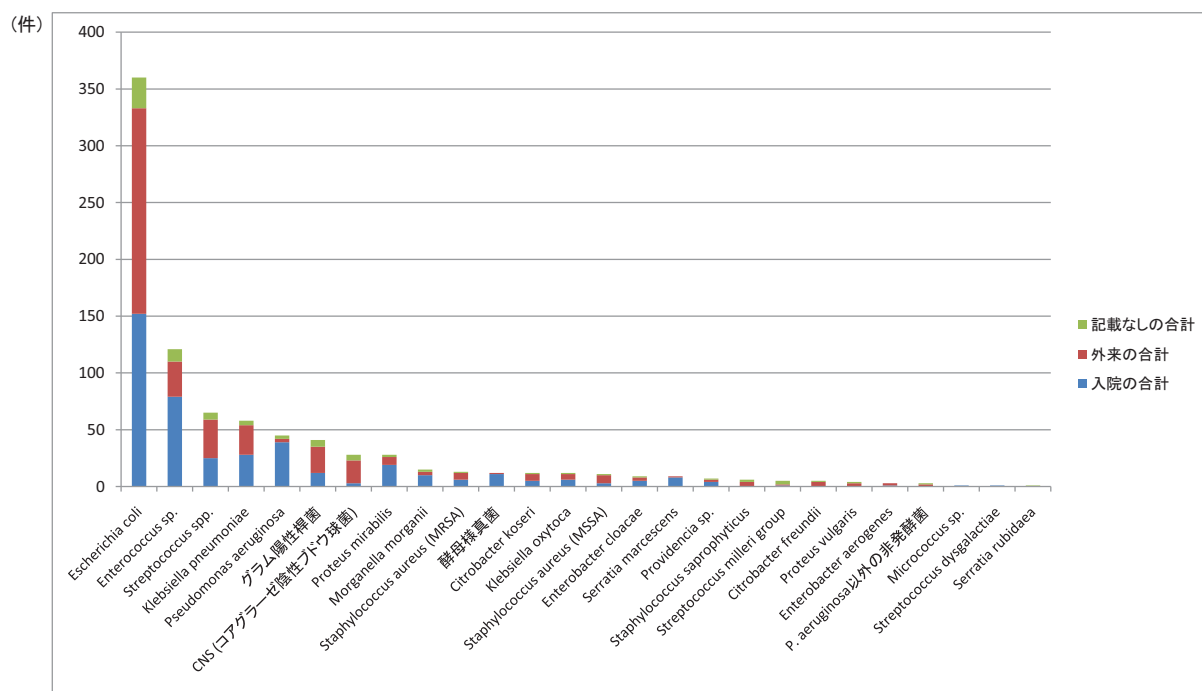


当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況及び細菌薬剤感受性情報を一部取り上げご報告いたします。全体の情報は当検査センターホームページに掲載されていますので、併せて診療にお役立ていただけたら幸いです。

今回は、尿の細菌検出状況と、その中で検出されている *Escherichia coli* の細菌薬剤感受性情報を掲載いたします。

【細菌検出状況】

【尿】細菌検出状況 2018年03月



尿路感染は、患者自身の腸管常在菌が尿道から上行性に侵入して起こることが最も一般的です。小児と成人において、*Escherichia coli* が尿路感染の起炎菌として圧倒的に多いのは、*Escherichia coli* が便中に優位に存在する菌であるだけでなく、特別な病原因子（例えば尿路上皮性細胞への付着能力）を有することを反映していると言われています。嫌気性菌は、便中の常在細菌叢の優位を占めているにも関わらず、尿路感染を起こすことはまれです。当検査センターにおいても *Escherichia coli* は尿中から最も多く検出されています。

【細菌薬剤感受性情報】

2018年 3月分

アンチバイオグラム (Escherichia coli)

系統	薬剤記号	商品名	%		
			S(感性)	I(中間)	R(耐性)
ペニシリン系	PIPC	ペントシリン	53	16	32
セフェム・オキサセフェム系注射薬	CEZ	セファメジン	46	1	52
	CMX	ベストコール	71	0	29
	CTX	セフォタックス	56	0	44
	CTRX	ロセフィン	66	0	34
	CAZ	モダシン	84	3	13
	CZOP	ファーストシン	70	11	19
	CFPM	マキシピーム	87	4	8
	CMZ	セフメタゾン	99	0	1
	FMOX	フルマリリン	99	0	1
セフェム系経口薬	CPDX	パナン	57	1	43
	CFPN	フロモックス	56	4	40
	CDTR	メリアクト	57	2	40
	CFTM	トミロン	67	4	29
カルバペネム系	IPM	チエナム	100	0	0
	MEPM	メロペン	100	0	0
その他β-ラクタム系	FRPM	ファロム	94	4	2
	ACV	オーグメンチン	80	15	5
	S/C	スルペラゾン	97	2	1
	T/P	ゾシン	96	0	4
アミノグリコシド系	AMK	アミカシン	99	1	0
	GM	ゲンタシン	82	0	18
テトラサイクリン系	MINO	ミノマイシン	95	3	2
その他抗菌薬	FOM	ホスミン	95	0	5
合成抗菌薬	LVFX	クラビット	47	2	51
	TFLX	オゼックス	43	0	57
	GRNX	ジェニナック	50	6	44
	ST	バクタ	79	0	21

ESBL (基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ産生菌: Extended-spectrum β-lactamase) による感染症は尿路感染が中心です。大腸菌、肺炎桿菌、Proteus mirabilis、からの検出が多いですが、その他の腸内細菌からも検出されることがあります。ESBLはペニシリン系、第1～3世代セフェム系抗生剤に耐性を示します。大腸菌は、フルオロキノロン系薬に対しても耐性傾向が高くなっています。

当検査センターホームページでは詳細な情報*をご覧いただけます。 <http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>
検査科微生物係

* 細菌検出状況(検査材料別)、細菌薬剤感受性情報(菌種別)、薬剤耐性菌分離状況